

**駿河湾・海洋 DX 研究開発事業化コンソーシアム
第 2 回コラボレイティブミーティング 議事録**

1. 日時・場所

令和 8 年 7 月 27 日（月）14:30-17:30

B-nest（静岡市産学交流センター） プレゼンテーションルーム
静岡市葵区御幸町 3 番地の 21 ペガサード 6 階

2. 次第

- （1）開会挨拶
- （2）駿河湾・海洋 DX 研究開発事業化コンソーシアムにおける ROV 運用実証に関する取組
- （3）講演
 - ① ロボットのまち 南相馬市の取り組み（南相馬市様）
 - ② 福島イノベーション・コースト構想と福島ロボットテストフィールドの概要・活動状況について（公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構様）
- （4）駿河湾・海洋 DX 研究開発事業化コンソーシアム ROV 運用実証分科会の取組
- （5）参加者からの情報提供
 - ① 清水銀行グループ様
 - ② 東京海上日動火災保険株式会社静岡支店様
 - ③ 大日工業株式会社様
- （6）閉会挨拶

3. 議事録要旨

（3）講演

「ロボットのまち 南相馬市の取り組み(南相馬市様)」および「福島イノベーション・コースト構想と福島ロボットテストフィールドの概要・活動状況について（公益財団法人福島イノベーション・コースト構想推進機構様）」のご講演について、以下の質疑応答があった。

- 海外連携の状況について
海外からの関心は高く視察は多数受けている。現時点では復興支援が中心であり、具体的な連携協定の締結には至っていない。
- 国研究機関との連携について
産総研や JAXA などの機関が施設内に常駐拠点を持っているわけではないが、試験利用としての実績は多数ある。

- 施設の採算性について

現状、公設試験場という立ち位置もあり、独自の収入で運営費を賄えてはいない。今後、施設の宣伝強化等で利用率の向上を図るとともに、新たな機能追加等で魅力を高め、公設試験場という立ち位置も維持しながら、採算性の改善も今後進めていく。

- 大学連携・教育機能について

福島イノベーション・コースト構想推進機構として、直接的な大学の誘致活動は行っていないが、福島県内への学生の流入は地域の発展につながるため期待している。

(5) 参加者からの情報提供

参加企業である清水銀行グループ様、東京海上日動火災保険株式会社静岡支店様、大日工業株式会社様の3社より、海洋DXに関する各社の取り組みについて以下の発表があった。

① 清水銀行グループ

創立時からの環境保全活動を海へ繋げる取り組みや、地域商社「株式会社しみずフューチャーデザイン」による新産業創出・起業支援・人材育成への全面協力が示された。さらに、探査船「ちきゅう」を支援する寄付型定期預金の実施など、金融の枠を超えた地域課題解決と海洋DXの推進が報告された。

② 東京海上日動火災保険株式会社静岡支店

安心・安全の提供を通じて地域経済の発展に貢献するという経営理念のもと、静岡支店では約80年にわたり地域に密着した活動を続けている。大規模な藻場再生によるブルーカーボンクレジットの創出やNFT等のデジタル活用による高付加価値化の模索について報告された。

③ 大日工業株式会社

自社のものづくり技術と産学官連携、地域企業連携を活かし、ROVに搭載した複数カメラから歪みの少ない映像を得る「オルソ画像処理システム」の開発成果が報告された。実証実験で判明した課題に対し、LED増設や姿勢安定化などの機体改良を迅速に実施しており、今後も海中ロボット用カメラユニットの完成度を高める方針が示された。